

がん相談業務 (院内におけるピアサポート)

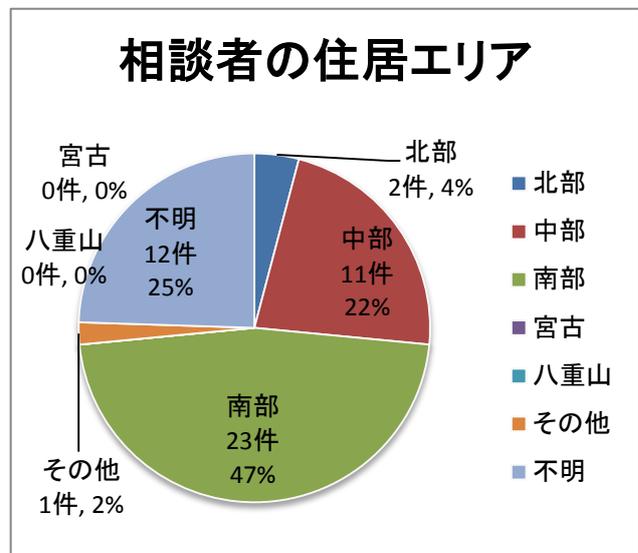
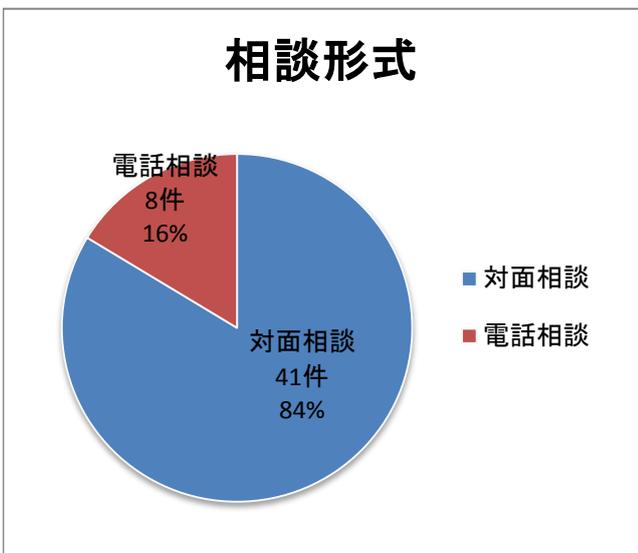
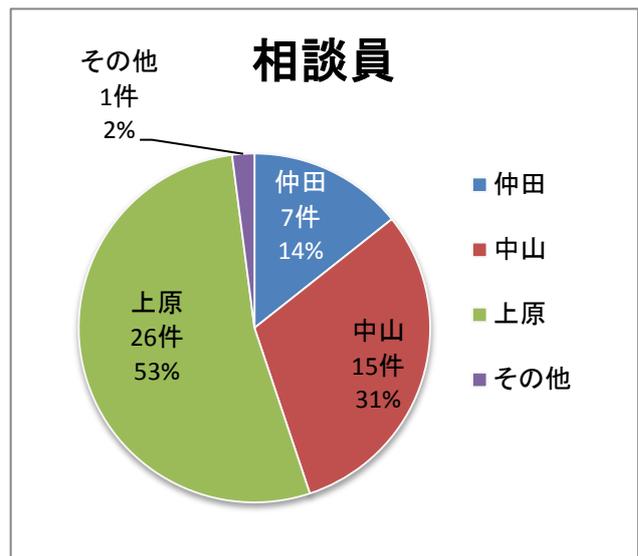
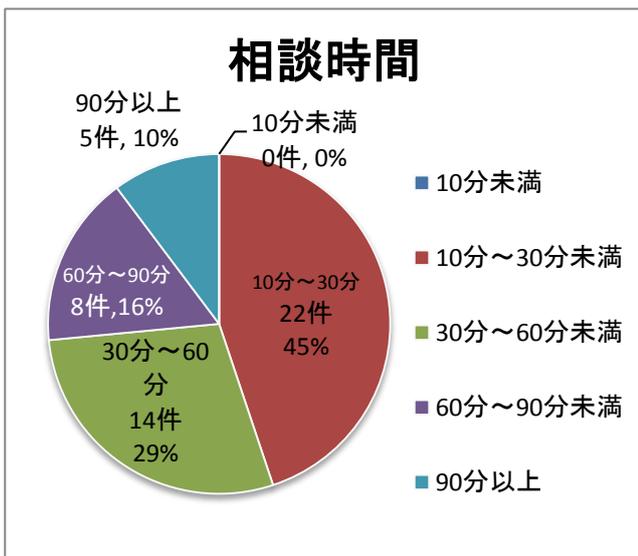
相談記録シート集計報告

実施期間：平成27年4月1日～平成27年6月30日

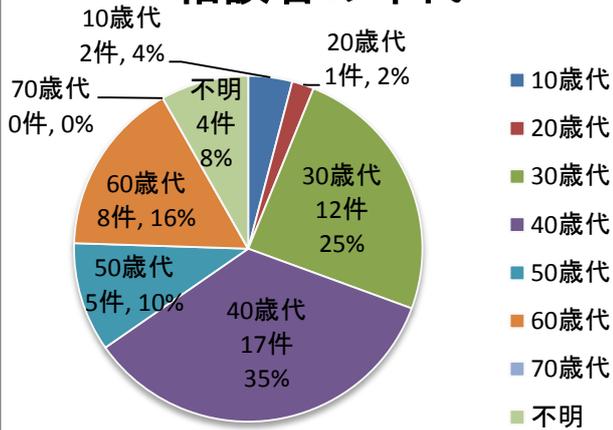
がん相談業務（院内におけるピアサポート）集計結果

- 調査対象期間 平成27年4月1日～平成27年6月30日
- 調査件数 49 件

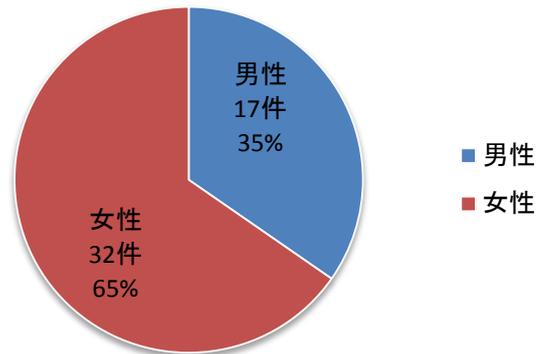
相談月	件数
4月	13
5月	17
6月	19
合計	49



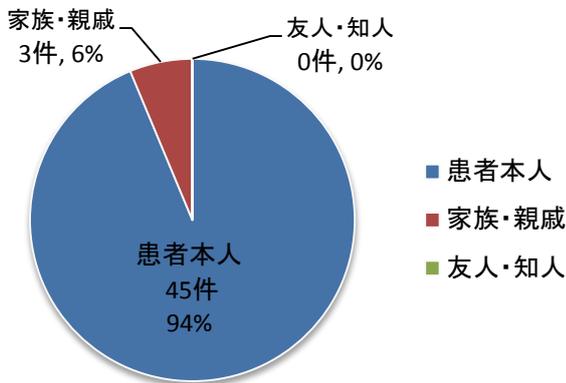
相談者の年代



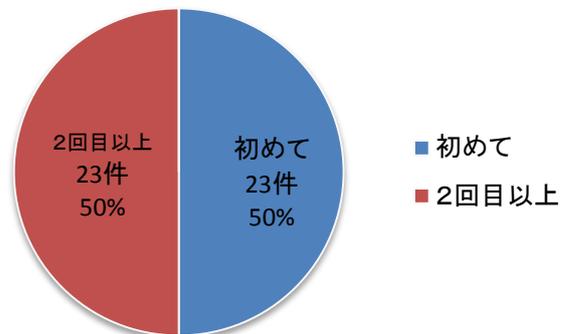
相談者の性別



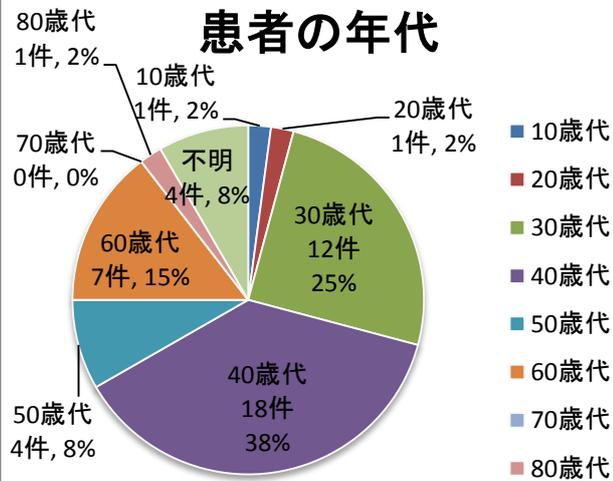
相談者のカテゴリー



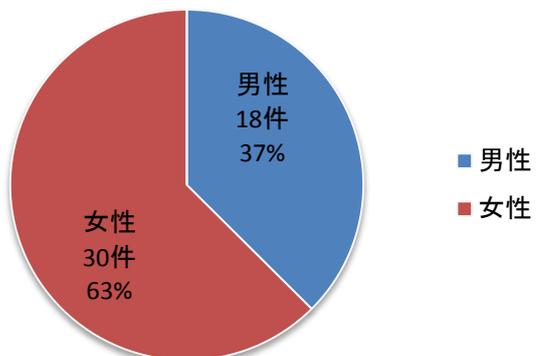
利用回数



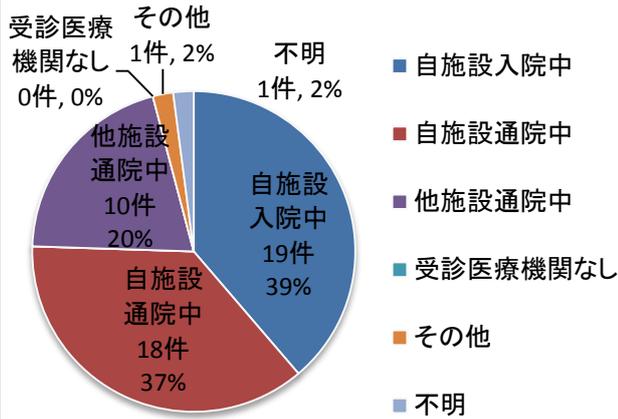
患者の年代



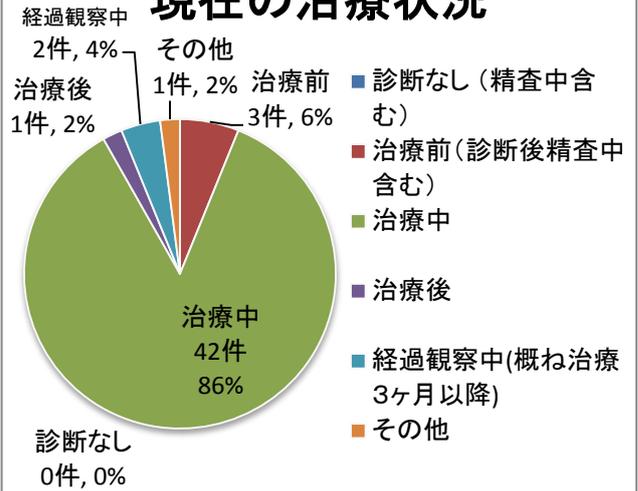
患者の性別



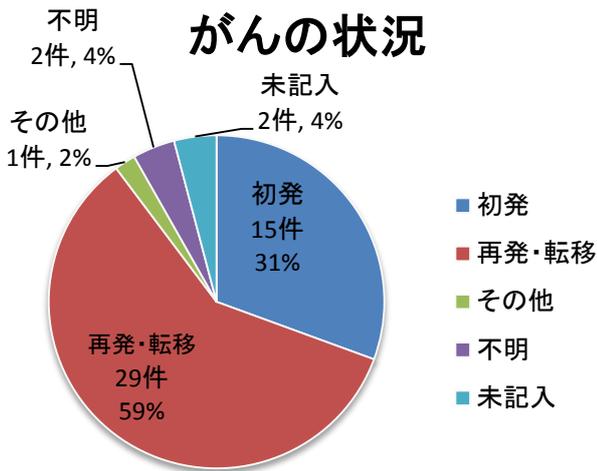
受診状況



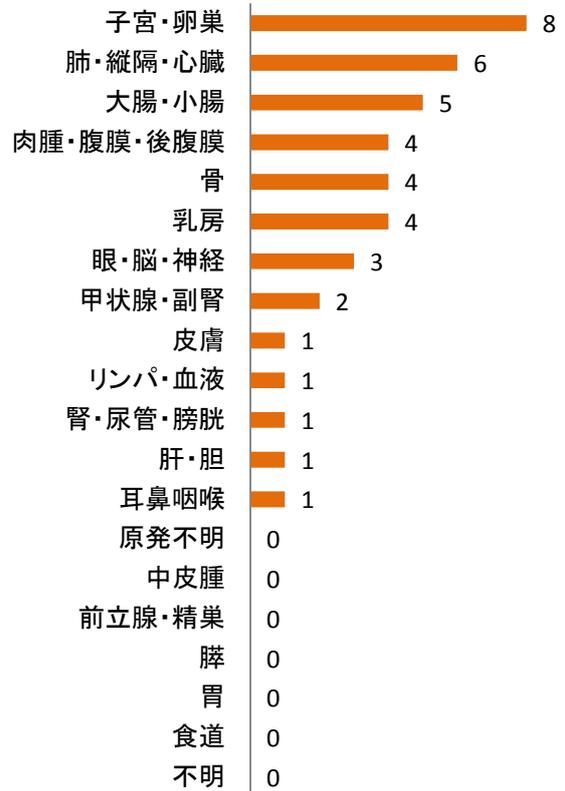
現在の治療状況



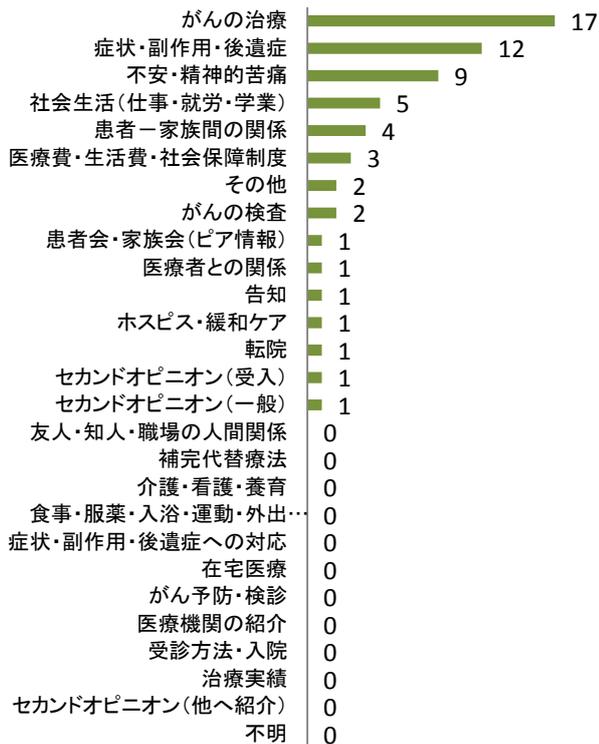
がんの状況



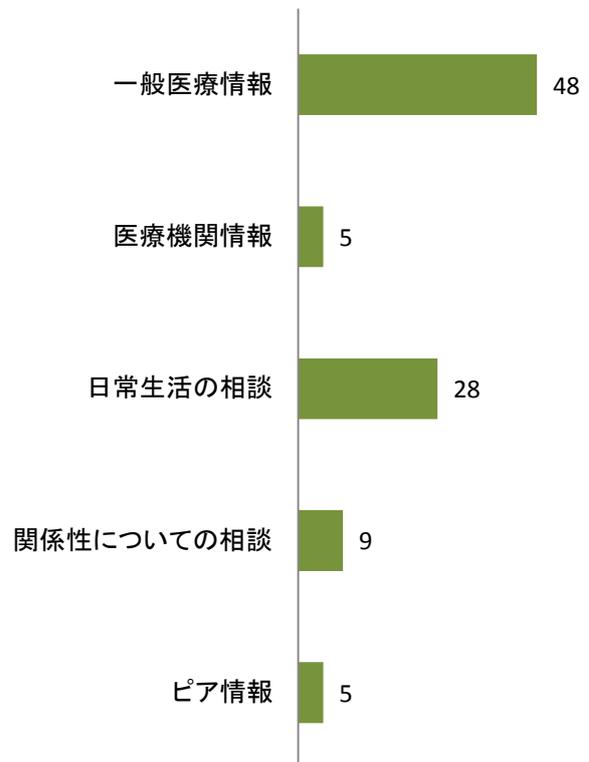
がんの部位



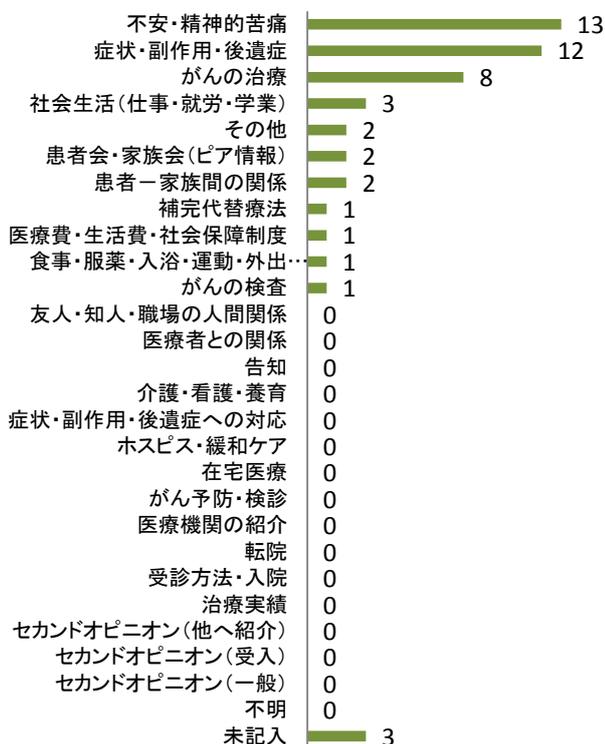
相談内容 (実施したものすべて)



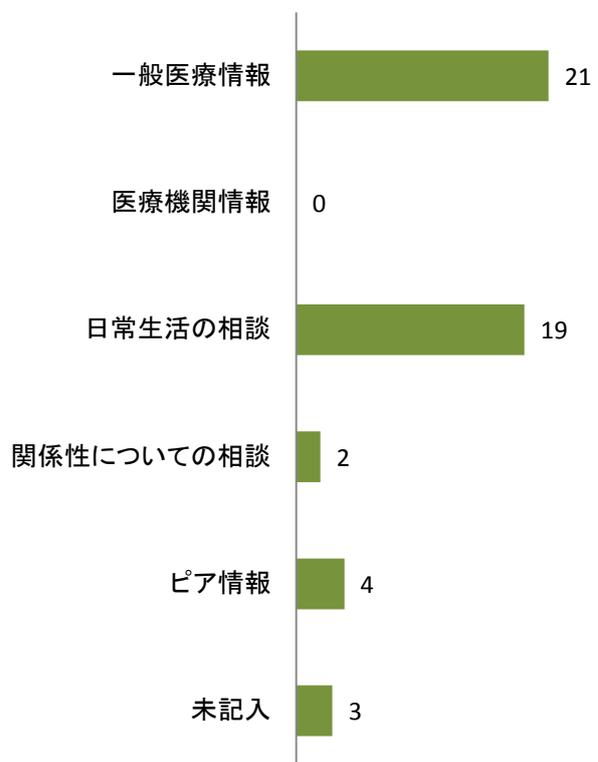
相談内容 (実施したものすべて・大項目別)



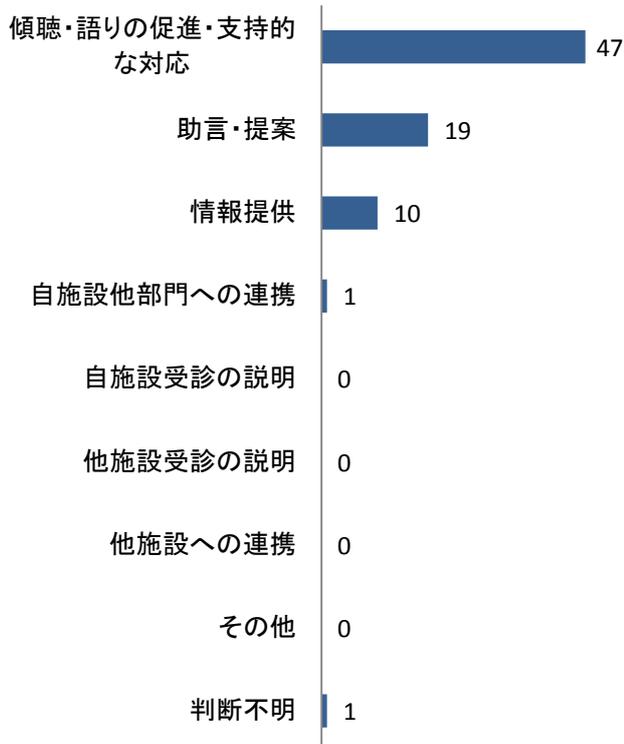
相談内容 (最も比重の高いもの)



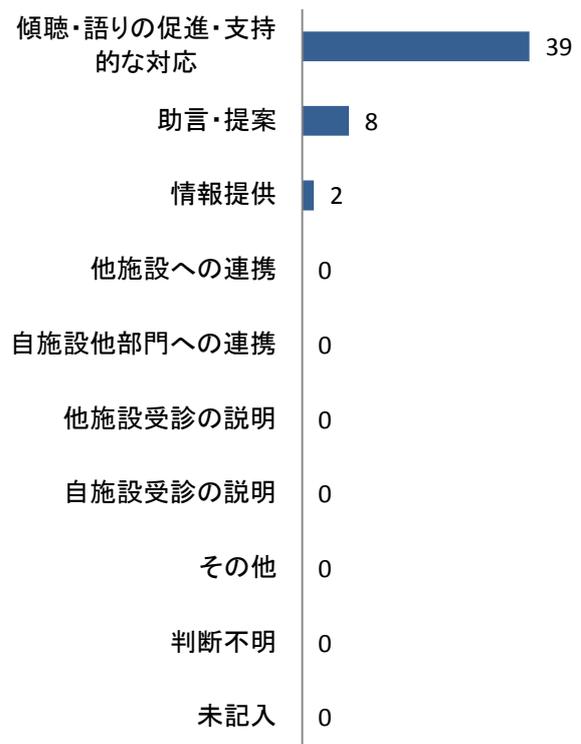
相談内容 (最も比重の高いもの・大項目別)



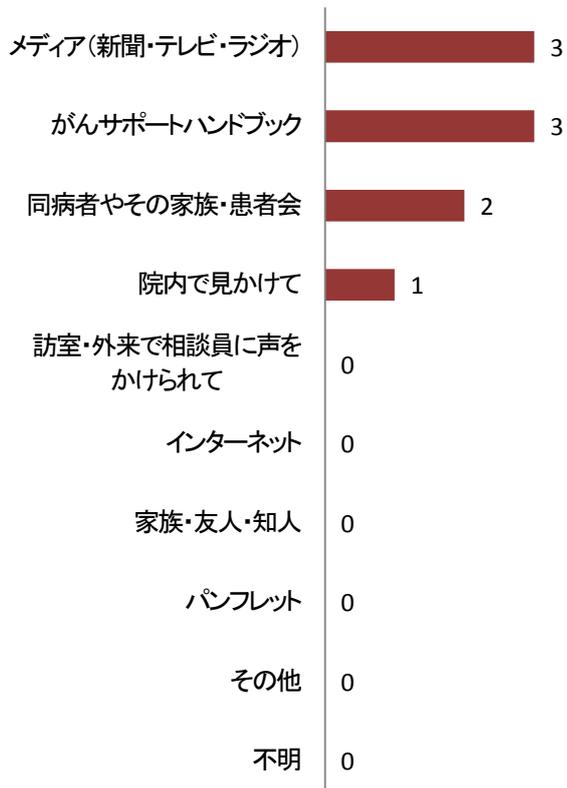
対応内容 (実施したもののすべて)



対応内容 (最も比重の高いもの)



認知経路 初回のみ



10/9

**がんピアサポーターフォローアップ研修前夜祭
がん患者会情報共有会**

日時:平成27年10月9日(金) 17時～19時(予定)
場所:那覇市ぶんかテンプス館 3階 会議室①
対象:「模擬相談演習」研修会参加者(原則)
参加費:無料

がん患者同士の情報交換や交流を目的とした「がん患者会情報共有会」を、10月9日那覇市ぶんかテンプス館で開催します。

千葉県がんセンターがん専門相談員の野田真由美さん、NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会理事の松本陽子さんを囲み、沖縄県のがん患者が互いの地域活動や組織運営について語り合います。

10/10

**がんピアサポーターフォローアップ研修
模擬相談演習**

日時:平成27年10月10日(土) 9時30分～16時30分(予定)
場所:沖縄県医師会館 会議室2・3
対象:ピアサポーター研修修了生、ピアサポートに関心のある方
参加費:無料

講師に千葉県がんセンターがん専門相談員の野田真由美さん、スペシャルアドバイザーにNPO法人愛媛がんサポートセンターおれんじの会理事の松本陽子さんをお招きして、1対1対応の模擬相談の実践トレーニングを行うことで、面談の経験を身に付けていただくことを目的に「模擬相談演習」を開催します。今までピアサポート活動されてきた方、これから始めたい方、ぜひこの機会に実践的な相談を体験してみませんか。

離島の方を対象に旅費助成を行います。詳しくは事務局までお問い合わせください。

沖縄県地域統括相談支援センター

(琉球大学医学部附属病院内)

平成 27 年度
Ti-da わらばーむ交流会
@琉大病院

開催報告

平成 27 年 5 月 17 日（日）実施

沖縄県地域統括相談支援センター

【概要】

日 時：平成 27 年 5 月 17 日（日）13 時～15 時

場 所：琉球大学医学部附属病院 5 階西病棟会議室・デイルーム

目 的：経験者と病児のご家族が病気に対する不安や悩みを分かち合い、交流を通して情報を交換することで病気に対する不安軽減へと繋げる。

対 象：琉大病院に通院中または入院中の病児とその家族

参 加 者：6 家族 17 名（患者 5 名、両親 6 名、祖母 1 名、兄弟 5 名）

主 催：小児がん経験者の会 Ti-da わらば一む

共 催：沖縄県地域統括相談支援センター

琉球大学医学部附属病院小児科

スタッフ：Ti-da わらば一む 6 人、医師 2 人、臨床心理士 1 人、事務 1 人

【プログラム】

12：30 ～ 受付

13：00 ～ 「Ti-da わらば一む」紹介

13：10 ～ メンバー自己紹介

13：20 ～ 小児がん経験者による体験談と質問コーナー

14：20 ～ フリートーク

【運営の振り返り】

- ・別室で子ども達を保育士の方々に見てもらったおかげで、ご両親やご家族が経験者とじっくり話をすることができていた。
- ・話が盛り上がっているところで終了時間となってしまったので、延長しても良かったのではないか。

【今後の展開】

小児がん経験者の会として安定した団体となっていることを受け、事務作業及び隔月の定例会の主催を地域統括相談支援センターで行う体制から、「Ti-da わらば一む」自身で開催し、年 2 回の交流会においても当センターから自立した運営展開をしていく方針となった。

地域統括相談支援センターとしては、今後は相談役に徹することとなる。

Ti-da わらばーも 交流会 @りゅうだいびょういん

“Ti-da わらばーも”ってなあに？

Ti-da わらばーもとは、こどものころに
がんになったことがある大人があつまる会
です。会の名まえは、Ti-da = たいよう
(おきなわの方言)、わらばー = こども
(おきなわの方言)、ばーも = 木 (ドイツ
語) など、みんなすくすくおおきく育つ
イメージでつけられました。



こんなことをするよ！

小児がん体験のお話

1. “Ti-da わらばーも” 紹介
2. メンバー自己紹介
3. 小児がん経験者による体験談と
質問コーナー

遊びのコーナー

病児や兄弟児は別室で遊べます。

みんなでゆんたくできる
場所もあるよ！
かぞくみんなできてね！

2015
5月17日 日

【ごご1じ～3じ】

場所：

琉大病院 5階西病棟会議室・
5階デイルーム

さんかひ：もりよう

主 催：小児がん経験者の会 Ti-da わらばーも

共 催：沖縄県地域統括相談支援センター・琉球大学医学部附属病院 小児科

お問い合わせ：Ti-da わらばーも

てんわ：090-9470-4368 (厚かま)

体験談を語る様子



フリートークの様子



別室の様子



第2回 八重山医療圏がん医療連携協議会 議事要旨

日 時: 平成27年6月25日(木) 18時～20時

場 所: 石垣市健康福祉センター 2階 視聴覚室

テーマ: 八重山医療圏におけるがん医療をみんなで一緒に考えよう

出席者:

沖縄県立八重山病院 病院長 依光 たみ枝

~~沖縄県立八重山病院 看護部長 上盛 厚子~~ 【欠席】

沖縄県立八重山病院 看護主幹 宮良 久美江

沖縄県立八重山病院 副看護師長 平良 芳子

沖縄県立八重山病院 化学療法認定看護師 内田 千穂

沖縄県立八重山病院 内科医師 瀬尾 卓司

沖縄県立八重山病院 地域連携室 社会福祉士 兼島 典子

沖縄県立八重山病院 看護師 山城 尚美

沖縄県保健医療部保健医療政策課 医療班 主査 高江洲 要

石垣市市民保健部 健康福祉センター 所長 前底 正之

石垣市市民保健部 健康福祉センター 所長補佐 東浜 妃敏

石垣市市民保健部 健康福祉センター 保健師 宮良 由美子

竹富町役場 健康づくり課 課長 前石野 裕和

八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会員6名

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター 特命助教 井岡 亜希子

陪席者:

琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

協議会の様子：



1. 開会のご挨拶 <5分>

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

八重山医療圏におけるがん医療を話し合う協議会も2回目を迎え、今回は竹富町役場をはじめ多くの方々にご参加いただき感謝する旨、あいさつがされた。(今年度より名称を「八重山医療圏がん医療連携協議会」と変更)配布資料を確認の後、以降は司会増田より議事進行が行なわれた。

2. 出席者の紹介 <15分>

出席者各自より自己紹介。八重山病院の依光院長先生からは、地域連携室を中心に病院として八重山に暮らすがん患者のバックアップを行っていききたいとのあいさつがされた。また夫をがんで亡くした患者会の会員からは、お世話になった先生方に対する感謝の言葉と夫の意思を継いで活動をしているとの想いが述べられた。

3. 報告事項

(1) 第1回八重山医療圏におけるがん患者と医療者の交流会議事要旨報告 <5分>【資料1】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

増田より前回の議事要旨が報告された。

(2) 平成27年度がん患者等支援事業活動計画について <10分>【資料2】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

今年度のがん患者等支援事業活動計画について報告された。大きく2つを活動の柱とし、ひとつめは「沖縄県全体におけるがん患者支援体制の構築」。具体的にはすでに5年目となり、日本全体の地域におけるがん療養情報の手本となっている『がんサポートハンドブック』の制作について、今年度もがん相談部会が中心となり編集会議が始動した旨の紹介があった。ふたつめとして「離島へき地におけるがん患者支援の構築」を挙げ、今年度の新たな取り組みとして、地元の県立病院、患者会と協力した医療講演会・勉強会の実施、沖縄県内39の有人離島におけるがん療養に関する情報をまとめたハンドブック制作を企画している旨の説明があった。前年度より実施の協議会については、今後も医療者、患者会、行政と各ステークホルダーが参加する形で継続開催していきたいと報告された。

(3) 第2次沖縄県がん対策推進計画中間評価における患者・家族・遺族に対する調査について <10分>【資料3】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター特命助教 井岡 亜希子

冒頭に沖縄県保健医療部保健医療政策課の高江洲氏より、平成27年度は第2次がん対策基本計画の中間評価の年であり、適正な事業評価および次期計画のより良い策定を目指し、琉大病院がんセンターに事業評価を依頼した旨の報告がされた。次に井岡より、中間評価の概略と「患者・家族・遺族」「医療者」に対する調査実施の案内および協力依頼があった。現段階で調査内容は草案だがA3両面1枚のボリュームを想定し、7月のがん診療連携協議会の幹事会、8月の本協議会を通じ、

秋までには調査票を作成して皆様のご協力を以て今年度中の調査実施を計画していること、医療者調査の内容は未確定だが、患者・家族・遺族調査の半分から2/3程度のボリュームを想定していることの説明があった。また調査票は医療機関や各団体を通じ配布・回収となるため、重ねて協力をお願いしたいとの説明もされた。患者会からは「離島の場合、治療費に加え渡航費や滞在費の問題があり、これらに該当する設問から明確な負担が浮き彫りになるのでは」という意見が寄せられた。これに対し増田は、草案の10, 16, 17が該当する項目であると説明し、離島へき地における負担は承知しており、重点的に現状把握を行っていききたいとした。

(4) その他 <5分>

(4-1) 痛みのスクリーニングについて

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

がん診療連携拠点病院の要件として、全てのがん患者を対象にしたがん疼痛などの苦痛のスクリーニングの実施が求められており、沖縄県では緩和ケア部会が主体となり全県統一で対応する取り組みをはじめっていると紹介された。スクリーニングの方法についてはバイタルでの実施が挙げられ、看護師の負担が増えるがぜひ実施検討してほしいと提案があった。

(4-2) 全国がん登録について

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター特命助教 井岡 亜希子

がん登録推進法により全国がん登録が開始されることを受け、がん登録の概略について説明があった。病院は法律が施行される1月から届出義務が発生し、診療所については県と診療所が審議し参加を決定する旨が報告された。がん登録で収集したデータからはがんの発生、生存率など様々な情報を得られる一方、十分に活用しきれていないという課題があり、今後有効かつ適切に利活用する取り組みに多くの関係者が参加してほしいとの呼びかけがあった。さらにNPO法人地域がん登録全国協議会の活動についてもふれ、患者目線の情報発信に取り組んでいるとの報告があった。これを受け石垣市市民保健部からは、がん登録から地域の患者特性に合わせた医師配置が可能になるのではと、データの有効活用に期待する声が寄せられた。

4. 審議事項

(1) 第1回交流会後改善された事項について <30分>【資料4】

これまで要望のあった議案一覧をもとに進捗状況の確認、今後の対応について協議された。

● 講演会勉強会実施について

- ・八重山病院にて各がん種の一般市民講座を行ってほしい。
- ・八重山病院にて、緩和ケア、疼痛緩和ケア、化学療法、放射線治療、乳がん看護の認定看護師の患者向けの話を知りたい。開催時には患者会にも声かけをしてほしい。
- ・八重山病院における緩和ケアやがん治療に関する現状報告会・勉強会などを開催してほしい。

<状況>

患者会からは、年度が始まり間もないこともありミニ講演会に関しての話し合いや調整はまだ行われていないが、今後各月の定例会で話し合いを進めたいと説明があった。化学療法認定看護師の内田さんの講演については、患者会主催の「出前講座」として10月開催に向け調整に入る。八重山病院からも「出前講座」については相談の都度対応をしていると説明があった。また前回話しの出た石垣市主催の一般市民向けがん医療講演の企画検討については、講師選出の問題があり具体的に進んでいないが、人選の要望があれば調整の上、健康福祉まつり等で講演会を開催することは可能との説明が石垣市市民保健部よりされた。

<協議結果>

- ・双方の窓口を明確にした。病院は地域連携室【八重山病院】、患者会はやいまゆんたく会の田盛副会長を窓口とし、今後進めたい企画等があれば連携を取る。【患者会】
- ・病院のミニ講演会や石垣市の一般市民向けがん医療講演会を、患者会からアピールして一緒に企画してみてはどうか。【琉大病院】

● 患者向け情報提供について①

- ・患者さんへ「やいまゆんたく会」という患者会があることを医療者から紹介してほしい。

<状況>

患者会の資料等は、現在、地域連携室のカウンターに置き、立ち寄った方に見て頂けるようにしている。毎月開催されている患者会の日程や場所を院内掲示板や地域の医療機関へ地域連携だよりとして広報している。(1回/月)がんサポートハンドブックの中に患者会の名刺をはる見込み。手渡し時に、案内するようにする。(準備中)

<協議結果>

(協議会では審議されなかったが、前回審議後に病院側に進捗があったため記載)

・自宅PCとプリンターでチラシを自作する【患者会】

● 患者向け情報提供について②

・八重山病院の勤務医師の専門分野等について、市民へ広報で紹介してほしい。

● その他

島外で手術・治療を受けた患者の退院後の定期検査、治療（抗がん剤・放射線）を地元で受診できる体制を確立して欲しい。

<状況>

石垣市市民保健部より、渡航費助成の手続きから受ける印象として、八重山病院における勤務医師の専門分野が患者に伝わらないため、島内で検査・治療の可能な患者が島外に流れているのではないかと指摘があった。放射線治療で渡航するのは当然だが、定期検査でも島外に通うケースが見られると現状を説明したうえで、病院を選択するのは患者であり、情報があれば安心して地元病院に通えるのではないかと意見があった。これを受け八重山病院からは、医師の入れ替わりが頻繁であることなどから、まずはかかりつけ医である地域の診療所への広報が優先であると考え、平成26年度は地域連携室および管理者で、各診療所を訪問し八重山病院でできるがん手術について説明にまわったと報告された。また各医療機関に配布している地域連携だよりで医師の紹介を行っており、これらの活動は今後も定期的に継続していく。一方で患者会からは、症状によっては地元の診療所に行かない患者もいるため、やはり八重山病院に各医師の専門分野を掲示してほしいという意見が改めて出された。さらに人事による医師不足から治療が継続できない場合があるとし、地元病院に対する不安を吐露した。ここで八重山病院の瀬尾医師より、担当する腫瘍内科についての説明がされ、腫瘍内科とは化学療法が必要ながん全般に関わる診療科であること、さらに一般に広く知られていない診療科のため、今後住民や開業医に対し積極的な広報が必要であることなどが述べられた。

<協議結果>

・医師不足から治療が継続できない問題は、腫瘍内科医がいれば化学療法は続けることができる。玉城和光副院長と相談しながら、必要な検査がある場合は本島に紹介するなど専門分野の先生ともコンタクトを取り、治療を進めていきたい。【八重山病院】

・継続的に医師を供給できるよう、県立病院として腫瘍内科医の育成やがん診療をどう捉えていくのか、今後議論を活発化したい。【八重山病院】

・八重山病院に各医師の専門分野を掲示することを再検討してほしい【患者会】

・患者自身が情報を見極め主治医を選択するには、院内での情報掲示は必要ではないか。二人の腫瘍内科医が八重山病院にいるのは稀有な状況であり、住民に広く知らせるためにも総務課の協力を以て実現する方向で再検討してほしい。【琉大病院】

・周囲に知られるのを恐れ、あえて島外で治療する現状もある。地域全体でがんを隠さない意識改革、早期発見・早期治療の“がん教育”に取り組む必要がある。【患者会】

● その他

渡航費助成制度の活用について（新議案）

<状況>

石垣市市民保健部より、渡航費助成制度の申請状況について報告があった。申請には医師の診断および証明が不可欠であると説明したうえで、渡航費助成は八重山に治療可能な医療機関がない患者の経済負担を軽減する制度であり、定期検査など島内で対応可能なケースについては八重山地区医師会と連携のもと、八重山病院で積極的に治療してほしいとの意見が出された。これを受け依光院長先生からは、院内の専門スタッフが充実し化学療法を受ける患者は確実に増えてきていると報告がされた。患者会は助成制度の対象となる難病指定の拡大に関連して財源にも言及し、これを受けた増田からは、限られた予算の分配について、がんサバイバーの立場から患者会でディスカッションをし、次回以降の協議会を通じて意見を挙げてもらうといいのではないかと提案があった。なおこの協議内容は、渡航費助成制度を利用した場合を前提とするもので、あらゆる事情により島外での治療を望む患者を制限するものではないと確認された。

<協議結果>

- ・医療者間で連携をとり、定期検査など島内で対応可能なケースについては、八重山病院で積極的に治療してほしい。【石垣市市民保健部】
- ・渡航費助成制度の活用について患者会で意見を交わし、取りまとめた内容を次回以降の協議会で挙げてはどうか。【琉大病院】

● その他

宿泊支援制度の活用について（新議案）

<状況>

石垣市市民保健部より、宿泊支援制度の利用状況について質問があった。これを受けて沖縄県保健医療部は、これまで1組2名の利用実績があること、7月1日から支援対象を拡大し、患者が入院する場合の付き添い1人に対しても制度が適用されることの説明がされた。患者会からはホテルの稼働率上昇により予約が取りにくいなど、制度の使い勝手の悪さが指摘され、病院周辺に宿泊施設がほしいと要望があった。これに対し沖縄県保健医療部は、まだ制度のニーズを探っている段階であり、病院近くにホテルがない現状は十分に把握しているので今後検討したいとする一方、当制度は沖縄県ホテル旅館組合のボランティア事業であり、善意で割引が受けられていることへの理解を求める場面もあった。

<協議結果>

- ・病院周辺に安価で利用できるファミリーハウスのような宿泊施設がほしい。【患者会】

(3) 次回開催日程について <5分>

3ヶ月後の9月4日、11日、25日を候補日とし、次回開催の日程調整をする。

5. 閉会のご挨拶 <5分>

・沖縄県立八重山病院 病院長 依光 たみ枝先生

2時間以上に渡り活発な意見や要望が出されたことに感謝を伝えるとともに、八重山病院における腫瘍内科の充実にふれ、今後沖縄県のがん治療および予防が、八重山地区を中心に発展することを期待したいと締めあいさつがされた。

第3回 宮古医療圏がん医療連携協議会 議事要旨

日 時：平成27年6月24日（水） 14時～16時

場 所：沖縄県立宮古病院 3階 講堂3

テーマ：宮古医療圏におけるがん医療をみんなで一緒に考えよう

出席者：

沖縄県立宮古病院 病院長 上原 哲夫
沖縄県立宮古病院 外科部長 松村 敏信
沖縄県立宮古病院 副院長兼看護部長 本村 悠子
沖縄県立宮古病院 副看護部長 小禄 範子
沖縄県立宮古病院 看護師長 金城 春美
沖縄県立宮古病院 がん疼痛認定看護師 青沼 裕美子
沖縄県立宮古病院 地域連携室室長 佐渡山 英子
沖縄県立宮古病院 地域連携室 相談員 古謝 亜紀

沖縄県保健医療政策課 医療班 主査 高江洲 要

宮古島市生活環境部 健康増進課 課長 宮国 泰誠
宮古島市生活環境部 健康増進課 補佐兼係長 仲宗根 美佐子

多良間村役場 住民福祉課 課長補佐 諸見里 幸子

宮古福祉保健所 健康推進班 班長 金城 房枝
宮古福祉保健所 健康推進班 保健師 銘苺 美奈子

離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会員5名

まんま宮古 会員1名

日本オストミー協会 宮古支部 会員1名

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人
琉球大学医学部附属病院がんセンター 特命助教 井岡 亜希子

陪席者：

琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

協議会の様子：



1. 開会のご挨拶 <5分>

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

昨年末の開催を皮切りに、宮古医療圏におけるがん医療を話し合う協議会も今回で3回目を迎え、定期開催ならびに参加者のご協力に感謝する旨、あいさつがされた。(今年度より名称を「宮古医療圏がん医療連携協議会」と変更)以降は司会増田より、配布資料の確認、議事進行が行なわれた。

2. 出席者の紹介 <15分>

出席者各自より自己紹介。年度が変わり顔ぶれに変化が見られ、なかでも前回までと大きく異なる点として宮古島市役所と多良間村役場の参加が紹介され、地元の行政担当者が協議に加わることで大きく動くがん対策もある旨、増田より説明がされた。

3. 報告事項

(1) 第2回宮古医療圏におけるがん患者と医療者の交流会議事要旨報告 <5分>【資料1】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

増田より前回の議事要旨が報告された。

(2) 平成27年度がん患者等支援事業活動計画について <10分>【資料2】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

今年度のがん患者等支援事業活動計画について報告された。大きく2つを活動の柱とし、ひとつめは「沖縄県全体におけるがん患者支援体制の構築」。具体的にはすでに5年目となり、日本全体の地域におけるがん療養情報の手本となっている『がんサポートハンドブック』の制作について、今年度もがん相談部会が中心となり編集会議が始動した旨の紹介があった。ふたつめとして「離島へき地におけるがん患者支援の構築」を挙げ、今年度の新たな取り組みとして、地元の県立病院、患者会と協力した医療講演会・勉強会の実施、沖縄県内39の有人離島におけるがん療養に関する情報をまとめたハンドブック制作を企画している旨の説明があった。前年度より実施の協議会については、今後も医療者、患者会、行政と各ステークホルダーが参加する形で継続開催していきたいと報告された。

(3) 第2次沖縄県がん対策推進計画中間評価における患者・家族・遺族に対する調査について <10分>【資料3】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター特命助教 井岡 亜希子

冒頭に沖縄県保健医療部保健医療政策課の高江洲氏より、平成27年度は第2次がん対策基本計画の中間評価の年であり、適正な事業評価および次期計画のより良い策定を目指し、琉大病院がんセンターに事業評価を依頼した旨の報告がされた。次に井岡より、中間評価の概略と「患者・家族・遺族」「医療者」に対する調査実施の案内および協力依頼があった。現段階で調査内容は草案だがA3両面1枚のボリュームを想定し、7月のがん診療連携協議会の幹事会、8月の本協議会を通じ、秋までには調査票を作成して皆様のご協力を以て今年度中の調査実施を計画していること、医療者調査の内容は未確定だが、患者・家族・遺族調査の半分から2/3程度のボリュームを想定してい

ることの説明があった。また調査票は医療機関や各団体を通じ配布・回収となるため、重ねて協力をお願いしたいとの説明もされた。

(4) その他 <5分>

(4-1) 痛みのスクリーニングについて

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

がん診療連携拠点病院の要件として、全てのがん患者を対象にしたがん疼痛などの苦痛のスクリーニングの実施が求められており、沖縄県では緩和ケア部会が主体となり全県統一で対応する取り組みをはじめっていると紹介された。スクリーニングの方法についてはバイタルでの実施が挙げられ、看護師の負担が増えるがぜひ実施検討してほしいと提案があった。

(4-2) 全国がん登録について

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター特命助教 井岡 亜希子

がん登録推進法により全国がん登録が開始されることを受け、がん登録の概略について説明があった。病院は法律が施行される1月から届出義務が発生し、診療所については県と診療所が審議し参加を決定する旨が報告された。がん登録で収集したデータからはがんの発生、生存率など様々な情報を得られる一方、十分に活用しきれていないという課題があり、今後有効かつ適切に利活用する取り組みに多くの関係者が参加してほしいとの呼びかけがあった。さらにNPO法人地域がん登録全国協議会の活動についてもふれ、患者目線の情報発信に取り組んでいるとの報告があった。

4. 審議事項

(1) 第2回交流会後改善された事項について <30分> 【資料4】

これまで要望のあった議案一覧をもとに進捗状況の確認、今後の対応について協議された。

● 講演会勉強会実施について①

- ・宮古病院にて各がん種の一般市民講座を行っていただきたい。(一年に数回、5大がん、各30分程度)
- ・宮古病院にて皮膚排泄ケアの認定看護師によるストーマケアの勉強会をしていただきたい。
- ・宮古病院にて、緩和ケア、疼痛緩和ケア、化学療法、放射線療法、乳がん看護の認定看護師の患者向けの話を聞きたい。

<状況>

県立宮古病院では宮古島市健康増進課と共催し、一般市民向けに「地域コラボ・島の健康講座」を実施している。対象が一般市民であるためテーマは医療全般に渡り、がんの特化した内容ではない。昨年は『がんを知るシリーズ』と題し、内科・外科で健康講座を開催した。今後、婦人科・耳鼻科でがんに関する講座を開催する予定があり、テーマについて患者会から要望があれば取り入れたいとの説明が病院よりされた。

<協議結果>

- ・地域連携室の佐渡山室長を窓口とし【宮古病院】、患者会から健康講座のテーマや勉強会に関する要望をあげる。【患者会】
- ・健康講座のテーマはがん種に加え、治療や治療後の生活など聞きたい内容を絞って要望する。要望の際は、整理した情報をまとめて伝える。【患者会】
- ・現在、宮古病院における認定看護師は、皮膚排泄ケア認定看護師、がん性疼痛緩和看護師に限られるため、他施設からその他の専門看護師を呼び勉強会を開催することも検討する。【宮古病院】

● 講演会勉強会実施について②

- ・宮古島市との講演会は現在宮古テレビで何度か再放送されている。待合いの時間にDVDを流してほしい。

<状況>

待合時間にDVDを流すことは機器の整備やマンパワー不足などから困難を期しており、また糖尿外来で患者教育を目的にDVD放送をしたことがあるが、テレビ放送に切り替えてほしいと要望されたこともあると説明された。宮古島市健康増進課からは、宮古テレビの行政チャンネルで放送された健康講座は健康増進課に申し出ればDVDの貸し出しが可能だが、あくまでも個人から要望があった際に対応するというもので、広く広報しているわけではないと説明があった。

<協議結果>

- ・機械整備、運用の問題から DVD 放映実施の可否については引き続き検討。【宮古病院】
- ・放映済の健康講座は DVD として貸し出し可能という案内をし、窓口および問い合わせ先を広報する。放映タイトルや内容については個人から問い合わせがあれば対応する。【健康増進課】

● 患者向け情報提供

- ・宮古病院の医療コラムの切り抜きをファイルに集めて患者さんが見られるようにしてほしい。
- ・患者会のチラシやポスターを配布・設置してもらいたい。

<状況>

医療コラムの切り抜きについては地域連携室が内容をまとめ、各科外来の待合室に閲覧ファイルを設置済。患者会作成のチラシやポスター設置については、患者会より宮古病院がん情報コーナーと宮古図書館のがん関連図書を相互活用する提案が提出され、よいアイデアなので採用決定した旨、病院より説明があった。

<協議結果>

- ・地域連携室の佐渡山室長を窓口とし【宮古病院】、患者会からチラシやポスター配布および設置の要望をあげる。【患者会】
- ・医療コラムファイルはすでに閲覧可能なので、積極的に活用する。【患者会】
- ・がん情報とがん関連図書の相互活用を促す啓発パネルについては、掲示板コーナーおよびがんコーナーに設置する。【宮古病院】

● ゆんたく会①

- ・ゆんたく会でピアサポーターとして関わりたい。
- ・ゆんたく会の参加者を増やせるよう、広報のお手伝いをしたい。(患者会会員へチラシの配布等)

<状況>

毎月第一木曜日 18時～20時、院内のデイケア室でゆんたく会を開催しているが、時間の関係から患者さんやご家族の参加が難しい状況で、1～2人の参加にとどまっているとの説明があった。こうした現状について増田より、参加人数を増やすには病棟の担当看護師からの声掛けが有効であり、参加人数が増えた際には年1回は行政も参加してはどうかと提案があった。またピアサポーターは資格制ではないので、資格がなくてもピアサポートすることはできるという説明がされた。患者会からは、病院のゆんたく会に少なくとも1名はピアサポーターとしてメンバーを派遣することが可能であること、また患者会主体の集まりでは病気や治療の話より日常の雑談が多く、定期的に顔を見ることで互いに相手を気遣える場であることなどが紹介された。

<協議結果>

・事前に宮古病院から各患者会のリーダーに連絡を入れ【宮古病院】、患者会で参加メンバーを調整のうえ、少なくとも1名をピアサポーターとして派遣し、ゆんたく会に参加する。【患者会】

● ゆんたく会②

・次年度のサロンの計画にも患者会に協力してほしい。お菓子作り等企画し、医療スタッフと患者会の親睦を深めていきたい。

<状況>

7月18日開催予定のオープンホスピタルに患者会のブースを設けるので参加してはどうか、と病院より提案があった。

<協議結果>

・一般市民に向けたオープンホスピタルに参加する。展示内容、準備などについては患者会内および宮古病院と話し合いながら進めていく。【患者会】

● 連携について

・患者会主催の講演会に医療者も参加してほしい。
・病院側で実際に検討・実行した内容をきちんと患者会へフィードバックしてほしい。

<状況>

患者会主催で、4月4日に緩和ケア医療講演会（小澤竹俊先生）を開催した。講演される先生のスケジュールの関係でこの日程となったものの異動の慌ただしさの中での開催だったため、医療者に参加してもらうのは遠慮してしまった。次回は時期を考慮し、話し合いにも一緒に参加してもらいたいと考えていると説明があった。

<協議結果>

・がん支援委員会のメンバーで交互に参加できるよう調整する【宮古病院】
・総務課を窓口とし【宮古病院】、患者会主催のイベント等がある場合は、早めに広報をする。【患者会】

- その他

- ・患者さんの気持ちが和むように花壇に花を植えたい。

<状況>

患者会より、宮古病院は県立病院だが宮古島のものであり、地域がもっと私達の病院だと親しみを持っていくためにも、みんなで協力して花を植えたりするのはとても素敵な取り組みではないかと提案があり、実業高校ボランティア部の平良先生に相談をし、環境工学の先生、宮古学園などに声かけみんなで植える方向で計画をする運びとなった旨が報告された。この提案に対し、上原病院長から病院としてもぜひ実施してほしいと声があった。

<協議結果>

- ・宮古病院入口のがじゅまるの木周辺に花を植える。【患者会】
- ・総務課を窓口とし【宮古病院】、植栽の範囲や方法などについて調整をする【患者会】

(2) 検討が必要とされた事項について <30分>【資料Ⅱ】

これまで要望のあった議案一覧をもとに検討が必要とされた事項について審議された。

● 講演会勉強会実施について

- ・患者会が正しい知識を持ってピアサポートが出来るように基本的なピアサポーター研修会を行ってほしい。(栄養、食事の工夫、リハビリ、副作用対策、補完代替療法への知識など)

<協議結果>

10月10日に琉大病院主催でフォローアップ研修会を開催するので、何名かを対象に旅費を負担し、研修に参加していただく。今年は模擬患者を使ったロールプレイを計画している。【琉大病院】

● 施設

- ・患者会が活動できる場所を確保したい。現在病院側は無償で提供できる部屋はないので、当面は他施設も視野に入れて検討した方がよい。

<協議結果>

- ・下地保健福祉センターは無料貸し出し可能。平日の月～金、8時半～17時または18時。年間スケジュールが決まっていれば部屋を押さえやすい。土日の利用は難しい。【宮古島市健康増進課】
- ・まずは下地保健福祉センターで利用実績を作り、必要に応じてよりよい条件に移る。【患者会】

● 連携①

- ・医療費の助成等、現在役所等で行う手続きを病院で行いたい。

<状況>

議案に関連し、宿泊支援および渡航費支援について審議された。まず始めに沖縄県医療保健部より、沖縄県ホテル旅館生活衛生同業組合が実施の宿泊支援について、これまで放射線治療を受ける通院患者および付き添い1名が対象であったが、7月より入院患者の付き添い1名についても制度が適用されることになったと報告された。現在のところ当制度の利用実績は1組2名にとどまっているが、ニーズによっては支援措置が拡大する可能性があり、要望の多い化学療法での制度適用などについては今後も意見交換等を通じて検討していきたいと説明された。宮古島市健康増進課からは、渡航費申請の際に当制度の利用をすすめたが、入院は対象外であったため利用しづらいという声が多かったと報告があり、今回滞在費の支援措置が拡大したことはよいことだと意見が述べられた上で、手術の付き添いについても制度適用をぜひ検討してほしいとの声があった。患者会からは、島内に診療科がなく島外へ通院する場合の制度適用や、渡航費と宿泊支援の整合性があるとさらに使いやすいという意見も出され、沖縄の地理的条件を鑑み、本島に加え、宮古島・石垣島にも病院近隣に安価で宿泊できるファミリーハウスのような施設がほしいとの要望があった。

渡航費については、宮古島市健康増進課より昨年の利用実績について報告があり、助成金額は170万円程度、利用者の内訳はがんと難病の特定疾患がほぼ同率であると説明された。患者会からは患者本人が要介護でなくても付き添い人を助成の対象にしてほしいという要望があったが、これに対し宮古島市健康増進課からは、同伴者ではなく患者本人の渡航回数を増やすことを優先に検討したいという意見が出された。また多良間村役場住民福祉課では5万円を限度に5回の渡航費助成を実施しているが、住民に病気を隠そうする傾向があるため、診療所の先生に協力を依頼し、助成制度の活用を促していることが紹介された。

<協議結果>

決定事項なし。次回に持ち越し。

● 連携②

・医療者、行政とともにイベントを共催し、宮古島のがん対策を強化したい。(リレーフォーライフ、ピンクリボン運動、がん検診など)

<状況>

宮古病院、宮古島市、保健所、患者会でチーム宮古を作り、リレーフォーライフに参加したいという要望が挙げられた。

<協議結果>

決定事項なし。提案にとどまる。

(3) 次回開催日程について <5分>

3ヶ月後の9月3日、10日、24日を候補日とし、次回開催の日程調整をする。

5. 閉会のご挨拶 <5分>

・沖縄県立宮古病院 病院長 上原 哲夫先生

宮古病院が地域がん診療病院に指定されたことを受け、当協議会における活動なども診療病院として評価された一部ではないかとし、患者会から提案のあった花を植える取り組みを評価したうえで、住民に愛される病院として今後も地域医療における中心的な働きをしていきたいと締めあいさつがされた。